

令和4年度 第2回 生駒市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

日 時	令和4年12月23日（金） 午前9時30分～11時25分
場 所	生駒市コミュニティセンター 401会議室
出席委員	清水会長 吉岡副会長 畠山委員 谷猪委員 伊藤委員 加藤委員 竹内委員
事務局	奥田教育こども部長、坂谷教育こども部次長 子育て支援総合センター：角井所長、竹田こども政策係員 幼保こども園課：松田課長、福山課長補佐、喜多指導主事、湯川指導主事、 矢田幼稚園係長 こども総務課：長西学童係長 健康課：吉村課長
会議の公開	公開
傍聴者	なし

1. 開会

2. 委員紹介

3. 議題

- （1）令和3年度事業実績報告について
- （2）令和4年度地域型保育施設及び認可保育所等（分園）の整備・運営事業者選定結果
- （3）令和5年度の地域型保育施設及び認可保育所等（分園）の整備について

会長

議題（1）令和3年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局

（資料1 説明）

会長

ただ今の説明に関して、委員の皆様からご意見やご質問はございませんか。

委員

保育士不足による待機児童があったということだが、詳しく説明してもらいたい。保育士不足がどのくらい待機児童に影響があったか知りたい。生駒市として今後どうしていくかが大事。施設はあるけど保育士がいらないということなのか、数字的にどのように分析しているか。

事務局

公立保育園において、11月1日時点で定員を満たすために必要な保育士の不足数は、0歳児7人、1歳児2人、2歳児1人、計10人で、この10人の配置ができれば、合計34人の子どもを受け入れることができる状態であった。私立の保育園でも同じような状況が起きてい

る。駅前の保護者ニーズが高い園でも、保育士不足で、定員どおり受け入れができていない状況である。

委員

どこの地域でも同じことが起きている。それに対して市としての対策はどう考えているか。一時的にアルバイトを募集してもいないのか、退職者の方に短期でも来てもらうような働きかけをするかなど融通を利かすことができるのかできないのか。何か方法を考えているのか。そこが一番大事だと思う。

事務局

平成29年から、「資格を活かそう相談会」を開催している。免許を持っているが現場に出ていない方を対象にした相談会である。今年は26人参加し、既に数名就労いただいている。公立保育園の保育士は、令和5年度4月1日に8人採用予定だったが、職員の離職もあり、3人追加採用をして11人に内定を出し、保育士確保に努めている。

事務局

私立園へは、保育士確保支援のため、1年経過ごとに10万円を3年間支給する仕組みを来年度に向けて検討している。離職率が高いという声も聞いているので、まずはそこで呼び込めたらと考えている。また、保育士の働き方が厳しいという声も挙がっている。短時間勤務の保育士に対しては、処遇改善の費用が国の施設型給付費の補助対象外になっているので市の単独補助として、雇用したら園に補助を出すということも併せて検討している。そうすることで、保育士の負担軽減につながると考えて予算要求しているところである。

委員

幼稚園教諭についても最低賃金が大阪市と全然違う。また、マスコミが保育士のマイナス面ばかり報道する。処遇改善と言われるが、現場の負担は大きい。命を預かっているのでもちろん大変なのだが、「なぜ子どもを育てるか」という大きな視点が必要。お金ばかりばらまくのではなく、保護者がどうすれば子どもを持ちたいと思うかを考える必要がある。女性が仕事に戻ることでできるサポートの補助も必要だと思う。

会長

議題1については、報告を受けたということで終了する。議題(2) 令和4年度地域型保育施設及び認可保育所等(分園)の整備・運営事業者選定結果について、説明をお願いします。

事務局

(資料2、資料2-2、サンライズキッズ保育園西松ヶ丘園リーフレットの説明)

会長 ただ今の説明に関して、委員の皆様からご意見やご質問はございませんか。

委員

園庭がない園は、地域の公園に出かけたりしている。今回も小規模保育園をつくられて近隣の公園に行かれるとのことである。近隣の幼稚園で定員割れしている園が、園庭等園舎の一部を園庭がない園に貸したらどうか。諸事情があるのかもしれないが。マンションの一室よりは、子育ての環境からすると、園庭があるところが望ましい。公園に行くまでの道中で危険な目に

合うこともない。距離的に通勤途中は難しいかもしれないが、本当の意味で子育てをする環境として良場所に園を作るべきである。

委員

とても大事な話だと思う。全国どこでも、園庭がなくても近くに公園があればいいという風になっている。ただ、選定にあたっての基準をどうされたのか気になる。今回ももう決まったのでいいのだが、屋外遊技場が施設から700メートルとなっている。この距離は、0歳、1歳、2歳の子にはありえない。先生が連れていくのはかなりの至難の業。色々な地域でヒアリングを行い、状況を見ている。同じような園があり、現状を聞くと週に3回散歩に行ったらいいか、という具合である。本来であれば毎日外で遊べた方がいいので気になる。

事務局

その点は、プロポーザルの時に確認をしており、遠い公園以外にも、近くにある小さな公園に行く想定をしていることを確認している。

委員

もし近隣に他の園があるのであれば、そこと連携するなどできないか。一緒に遊ぶ交流も大事。市として色々な働きかけが必要。発達の大事な0～2歳児が外の空気を感じることが薄くなる気がする。もう一つ、令和4年に同じ事業所で一つ園ができている。神奈川県で法人をされているところで、大阪でも2つ持っている。都会的保育と生駒市という自然豊かな地域性・文化について違和感がなかったのか、実績を見られてどうなのか。1年間の実績で感じられたことはどのようなことか。

事務局

当該法人の所在地は神奈川県横浜市であるが、小規模保育園は全国展開され、滋賀県大津市や大阪府高槻市など、生駒市と近い環境の地域での実績もある。今年度開園した市内の小規模保育園へは、訪問し保育の状況などを視察させていただいている。小規模園でアットホームな雰囲気、リトミックなどのプログラムも取り入れていた。リトミックに興味のない子や発達がまだな子は先生と一緒に遊ぶなど、一人ひとりを実実に預かっている状況を確認した。生駒市近隣の保育園で経験を積んだ保育士が勤務されている。法人がつくっている出欠確認システム等を活用している様子も確認できた。

委員

幼稚園と保育園で違うところはあると思うが、幼児教育では非認知能力が必要。自ら学習することが今後の養育に必要と言われている。リトミックが現状多いが、果たしてその結果が将来役に立つのか。システムばかりがいいのか、どういった教育がいいのか長い目で見た時に、生駒市としてこういった子育てをしている、というのがあった方が、子育て世代も興味を持ってくれるかもしれない。

事務局

就学前保育・教育に関しては、生駒市で統一カリキュラムがあるので、同じ方針で保育をしていただく。その点は、プロポーザルの際にも確実に確認をしている。その上で、法人としてのプラスアルファの魅力を考えてもらう。

委員

公立保育園が統一カリキュラムをつくって、非認知能力をつけていくことを大事にしている。特色とするものを民間が入れるのはいいが、選定の時に生駒市の統一カリキュラムをどう把握しているかを知らなければならない。せっかく公立の先生でカリキュラムをつくったのだから、他府県から手を挙げてくる企業がどれだけ理解しているかを確認することが大事。

事務局

先ほどもお話ししたように、プロポーザルの審査方法に統一カリキュラムに合致しているかどうかを確認し、実際に年間通してカリキュラム通りされているかの確認も行う。

会長

報告の仕方についての意見だったので今後検討してもらいたい。議題2について他どうですか。

委員

西松ヶ丘園は高齢者施設の1階部分を保育園にあてられているということだったが、高齢者施設の会社とは無関係なのか。

事務局

無関係である。

委員

子どもが通っている保育園では、高齢者と園児との交流機会があった。高齢者の方との交流を熱心にやっていて子どもも楽しかったと言っていた。コロナ禍で難しい面もあると思うが、高齢者施設との交流は大事。高齢者にとっても元気になるし癒されるし、子どもも高齢者を大切にする心が育まれるので、積極的にやってもらいたい。

会長

園に対して助言で伝えていただきたい。報告事項なので、出た意見を伝えてより良い保育にしてもらいたい。

議題(3) 令和5年度の地域型保育施設及び認可保育所等(分園)の整備について、説明をお願いします。こちらが審議案件になる。

事務局

(資料3、資料3-2の説明)

会長 ただ今の説明に関して、委員の皆様からご意見やご質問はございませんか。

委員

分園について、既存法人で見つかる見込みはあるのか。

事務局

今年度の公募の際に、応募には至らなかったが問い合わせはあった。

委員

小規模園を、分園に変えることはできるのか。

事務局

できないことはないが、補助金をもらって整備されているので、一定期間経過しなければ補助金を返還しなくてはならないなどの条件がある。

事務局

法人がどういう風に場所を選ばれるかが大きな問題。整備費が補助として出てくるが、駅前の保育園を望まれている方が多い。駅前の施設がこういった形で借りられるか、公園の近くが借りられるか、というところが大事である。本園の定員を減らして分園にもっていくこともある。保育士の確保が一番の課題。保育需要に合わせながら場所的な条件が加味されると思っている。

会長

分園にすることによって何かプラスになることはあるのか。プラスがあれば分園をつくりたいと思う。大きな目で見たら子どもが減るので分園にした方がいい気がする。加点を付与するなどのしくみはあるのか。

事務局

加点はない。管理者（園長）を置かなくていいのは経費的にも法人にとってはプラスになる。

事務局

3歳からの園が決定している、というのは保護者にとっても安心感がある。小規模だと3歳からどの園にいくか決まっていないので不安を感じる傾向がある。保護者にとっても分園希望の傾向はあると思う。

委員

近くに広場がない、園庭がない、という点でためらう人も多いと思うので、やはり施設としての環境整備が保護者にとって大事だと思う。

委員

保育園に通わせている友人にきくと、2歳までだとまた園を探さないといけないという声が多い。私立は延長保育があるから行かせたい、という声もあった。幼稚園の延長保育は17時までが多いが、18時までにするのは無理なのか。

事務局

そのような声もいただいている。今の実情だと、幼稚園教諭の勤務時間を延ばさないと行かない。ローテーションを組んで教諭の数を増やす必要がある。幼稚園教諭もなり手が少なく人が足りない。数の確保が苦しい状況で延長保育を18時までというのは難しい状況である。

委員

公立は枠組みのある勤務時間である。私立幼稚園では処遇改善の厳しさがある。でもニーズもある。常時20名以上の預かり保育の希望もある。延長するとすればパートを増やす等せざるを得ないが先生がいない。私立も努力しているが厳しい状況。

会長

連携園が確保できないという課題で小規模は難しい状況。各園にお願いできるように、引き受けたところに加点や何かプラスができればいいかなという気がする。私立も含めて連携園になってもらえるように、たくさんの子を受け入れられるしくみを構築してもらいたい。

委員

小規模園では、東大阪市のしくみが一番いいと思っている。募集項目に連携園の確保がある。市も主導で近郊の園で確実な確保をお願いする。近くに民間がなかったら公立で確保する。確保されているが、選ぶのは保護者なので他に行ってもいい。でも困らないために必ず確保枠があるので不安の意見は出てこない。選ばれなくてもお互い様、というのを市として決めているので問題は起こっていない。連携園を確保するのは基本市が主導で実施している。

事務局

現状を説明したい。令和3年に公募で小規模園が決まった時も、連携園になっていただくよう、近隣私立保育園に法人が出向き依頼され、市からもお願いをした。生駒の特徴として駅前に小規模園が集まっているので、3歳からの保育を行っている園は手一杯になってしまっている。法改正もあって、小規模園の運営法人が連携園を確保しなくてもいいことになり、最終的には自治体が責任を持つことになった。公立で受け入れることになったが、公立園は、立地が分散している。小規模園は駅前なのに、公立の連携園は離れている。保護者にとっては、2歳まで駅前だったのに3歳から離れた場所になってしまう。

委員

令和3年はコロナ禍で大変な中、事業展開していただきありがとうございます。子どもたちが様々なところで育まれていることを知った。昨今、保育士の問題や運転手との信頼関係ができていない等の報道を見ると、園を運営している身としては悲しい。システム上のことも大事なことだが、子どもがどうかたちで毎日保育をしてもらっているかという現状を見直したいと話していた。

委員

常々思っていることは、居住地から近い園から選ぶので待機児童が出てくる。実質待機と単純待機とのギャップを感じる。保護者の話を聞くと、兄弟姉妹で別の保育園のこともあり、それだけ時間も負担も掛かる。そこを何とか解消してもらいたい。保育士不足のことも、市で手を入れてもらわないと無理だと思う。小学校は放課後こども教室があるが、学校によっては教室が足りないところもある。子どもは喜んで来てくれているが親のニーズは変わってきている。育友会やPTAによる運営が難しくやめているところもある。保護者のニーズを考えてもらいたい。

会長

これまでの議論をまとめると、整備の方針としてなんとか分園の方向でいきたい。次に、小規模であっても何とか連携園を確保したいので、連携園にとってのインセンティブを考えてもらおう。今はちょうど予算要求時期かもしれないので、何か付け加えてもらおうと前に進むかもしれない。今は待機児童がいるが、今後人口減少で減っていく。社会インフラで位置付けられないかを国では考えている。すべての子どもが園に結びついて子育て中の相談はまずそこで受けてもらえる。各園に専門家を置く訳にはいけないので、あくまで入口としてだが、その園で子どもを遊ばせておける。その間に総合センターのような所で相談を進められるようなシステム。生駒市の子どもが色々な経験ができ、保護者が安心して子育てできるシステムができたらいいと思う。今回、委員の方の意見をもとにもう一度検討してもらおう。方向性についての承認は取れているので、それ以上のことを考えてもらいたい。

委員

公立園が北地区にはないが、イベントをしても小さな子の参加は多い。園の声を聞くと、入園希望の見学も多いとのことなので、また北の地域で待機が出る心配があるのでお伝えしたい。

会長

北地区について、考えられることがないか探ってもらいたい。この会議で提言できれば次年度以降の予算に反映される可能性もある。よろしくお願いします。

次第4「その他」ですが、連絡事項等何かありますか。

事務局

公立幼稚園で今年度から冬休みと春休みの預かり保育を実施することになったので報告する。

事務局

様々なご意見ありがとうございました。子どもが育まれ、保護者が安心できるしくみをつくる必要があると思うので、今後もお力添えいただきたい。今年度の会議は今回で終了となる。来年度以降は、現在の生駒市子ども・子育て支援事業計画が令和6年度で終了するため、第3期計画を策定する業務になる。令和5年度にはニーズ調査が必要で年度後半の実施を予定している。基本的には国が示した指針にそって実施する調査になる。スケジュール的には、夏頃に実績報告のための会議を開催し、秋頃にアンケート案について伺い、結果報告を冬に行いたいと考えているので、令和5年度は3回の開催予定となる。また時期はご相談したい。令和6年度は4回の開催を予定している。児童福祉法改正も令和6年度にある。計画にある事業にも関わってくるので、詳細が分かり次第次年度の会議で説明させてもらいたい。

会長 本日の会議を終了とします。

(閉会)